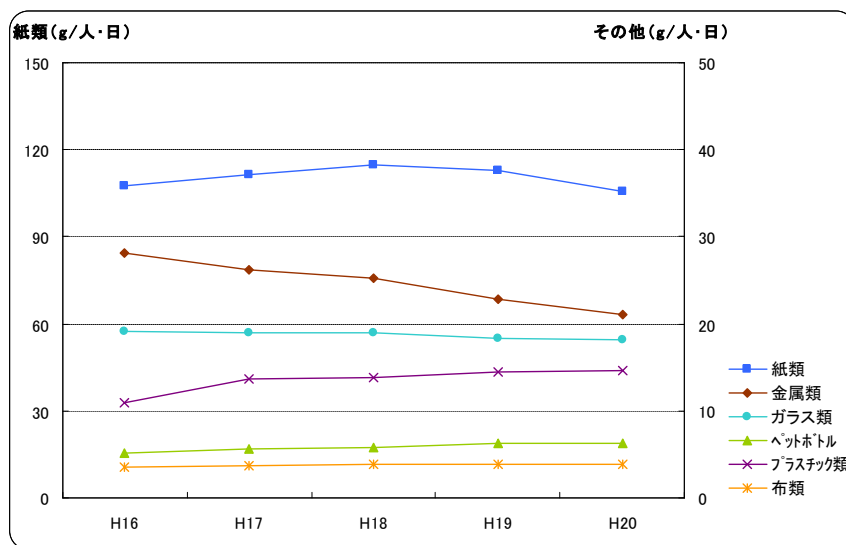


資源化率減少の解析

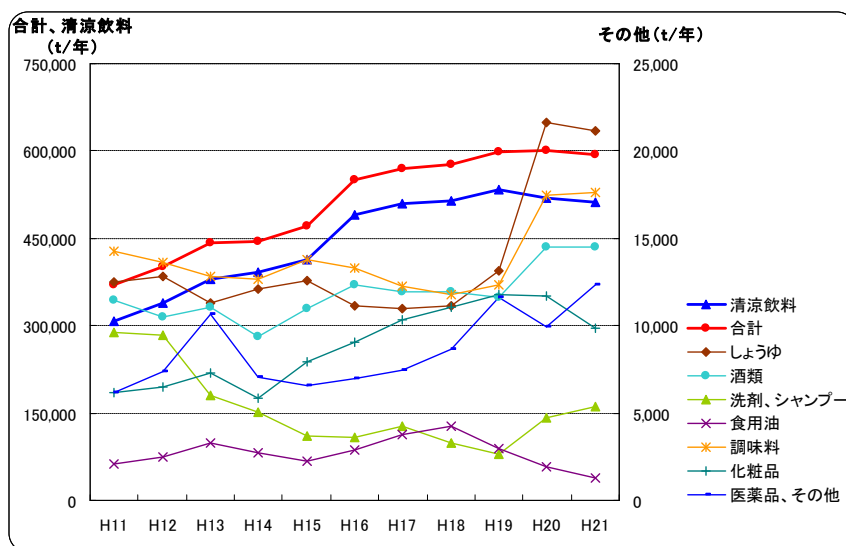
1 全国の資源ごみ排出動向



芦屋市の資源化率減少の要因を解析するため、まず、全国の資源ごみ排出状況を調べた。環境省の一般廃棄物処理事業実態調査結果から、全国の種類別資源ごみ排出量合計を計画収集人口で除した単純原単位は、上図のとおりであった。

紙類、金属類（缶含む）、ガラス類（ビン含む）は、減少傾向、ペットボトル、プラスチック類、布類は、横ばいから微増傾向であった。

2 製品需要の動向



上記で微増傾向を示したペットボトルについて、PETボトルリサイクル推進協議会の示すボトル用PET樹脂需要の動向は、上図のとおりであった。

用途によっては、増加しているものもあるが、PET樹脂全体としては、ここ数年ほぼ横ばい傾向にある。

生活様式の大きな変化がない限り、PETボトルの利用は、今後も同程度が維持されるものと想定される。

つまり、消費及びごみ排出においても、現状と同程度に留まるものと予測される。

3 資源化率減少の対策

以上のことから、資源ごみの減少及び資源化率の減少は、全国的に消費自体が低迷していることに関連づけられる。

また、芦屋市は、国の示す循環型社会形成推進基本計画の考えに則り、ごみ処理の優先順位を「①排出抑制→②再使用→③再生利用→④熱回収→⑤適正利用」と設定している。

したがって、第一に排出抑制により、ごみ排出量全体を減少させることが重要であり、次に資源化率の向上を目指すことになる。

資源化率向上のためには、さらなる分別の徹底や再資源化処理の効率化等を図る必要がある。

なお、近年のごみ排出量減少は、少なからず景気の影響を受けていると考えられることから、各市が「市町村における循環型社会づくりに向けた一般廃棄物処理システムの指針」に基づき入力した情報を注視していく必要がある。